

# 辺野古通信

第44号 2015年2月13日



1/29 辺野古

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)  
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

## 辺野古の海を壊すな！安倍政権の暴走を止めろ！

■年明けから沖縄では驚くべき事態が進行している。警察機動隊と海上保安庁の暴力的弾圧体制に守られて、沖縄防衛局による米軍基地建設に向けた作業が強行されている。沖縄の民意、県知事・県議会・地元名護市長・市議会の作業中断要請を無視して突き進むその姿は、「民主主義国家」の体裁さえもかなぐり捨てた独裁国家と変わらない。■2/12の安倍の施政方針演説は驚くべきものだ。「大差で当選した翁長雄志知事が上京しても、首相はおろか「沖縄基地負担軽減担当相」たる官房長官、外相、防衛相の誰一人会おうとしない政権だ。これで「引き続き沖縄の方々の理解を得る努力を続ける」とは、聞いてあきれれる。韓国とは「対話のドアは常にオープン」と言う。沖縄への態度に照らして、恥ずかしくないか。」(2/13 琉球新報社説)まさに「虚言もここに極まれり」(同社説)というほかない。■辺野古の海でも陸でも、市議員も県議員も国会議員も巻き込んで、負傷者続出の県警・海保の暴力的規制に屈することなく、文字通り命懸けの抵抗闘争が続いている。「オール沖縄」の世論を背景に昨年結成された「島ぐるみ会議」が、連日辺野古行のバスを運行し、島内各地からシュワブゲート前に人々が集まってく

る。議員も若者も年配者も一緒になって座込みテントでゲートの出入りを24時間監視している。(2-3P参照)■1/27から、フロートやブイのアンカーとなるコンクリートブロックが大浦湾に投下され始めた。翁長県知事の作業中断要請の翌日の暴挙だ。10~45トンという巨大な塊が、大浦湾の「奇跡の珊瑚礁」を壊し始めた様子が、ヘリ基地反対協の調査で暴露された。仲井真前県政が許可した岩礁破壊申請の区域外の出来事だ。一刻も早く、破壊行為を止めなければならない。■安倍政権の暴走を一刻も早く止めること。そのために私たちは何ができるのか。1/25の国会包囲ヒューマンチェーンは、昨年末からの緊急の呼びかけにもかかわらず7000人超という予想を超える人々が集まり、「辺野古新基地建設を止めよ！」「ジュゴンの海を壊すな！」の叫びを永田町に轟かせた。しかし、沖縄に関心を向けるヤマトの世論喚起は、まだまだ十分とは言えない。辺野古で何が起きているのか、まず知ってほしい。そして、できることから始めよう。3/9「圧殺の海」横浜上映会へ、多くの参加を！

■辺野古・高江カンパは累計1,615,166円(2月13日現在)。引続きカンパを！  
郵振 00210-0-2021 沖縄連続講座

### 「圧殺の海」横浜上映会

辺野古の海と陸の最前線にカメラを据え、剥き出しの国家暴力の現場に迫る。森の映画社製作・109分。

■3月9日(月) 第1回上映 14時 第2回上映 18時半

■会場：横浜市技能文化会館8階802号

■入場料：1000円 中高校生 500円

■主催：沖縄の自立解放闘争に連帯し反安保を闘う連続講座

■後援：基地撤去をめざす県央共闘会議/自治労横浜市従業員労働組合



# 安倍政権の戦争国家化と対峙する辺野古の闘い

～1/29-2/1 シュワブゲート前行動参加報告～

1月下旬から4日間、辺野古に行ってきた。4日間の短い滞在だったが、辺野古でいま何が起きているのか、その一端を見ること、感じ取ることができた。安倍改憲政権の戦争国家化と正面から対峙する最前線の闘いが、そこにある。私たちが首都圏でやるべきことは山ほどあるが、とにかく辺野古現地で、沖縄の人々の思いに触れることが大切だ。(F) (本報告は沖縄講座ブログ <http://okinawakoza.at.webry.info/> 掲載の記事を基に加筆・修正。)



1月29日(木)

東京では10度以下の真冬だったが、那覇に着いた途端に20度以上のポカポカ陽気。那覇空港からレンタカーで沖縄自動車道へ入り、名護へ直行。許田の道の駅で食事をとって辺野古についたのは13時すぎ。漁港のテント村でヘリ基地反対協代表の安次富浩さんに地元・神奈川で集めたカンパを渡す。

シュワブの浜から水平線を見渡すと、大きな海保の巡視船が数隻、海と陸の抗議活動を威圧するかのようには配備されているのが見えた。辺野古のお年寄りが、「まるで沖縄戦の時の米軍艦船のよう」と語っているのも頷ける。

歩いてシュワブゲート前の座込みテントに向かう。年明けの1月中旬、夜間に闇討的に資材が強行搬入されてから24時間の監視体制となり、新ゲート右側の歩道に寝泊りのできるりっぱなテントができています。抗議行動を妨害するための「殺人鉄板」が敷かれている旧ゲートは機動隊の車両で塞がれている。昼間のゲートからの資材搬入はほとんどない模様。船で運び込まれているという情報もある。

「島ぐるみ会議」のバスが沖縄全島各地から運行されるようになり、昼間のゲート前は賑やかだ。沖縄平和運動センター議長の山城博治さんのリードで、沖縄各地、全国各地からの参加者の発言、唄ありダンスありのアピール行動。時折、ゲート前で警備員やその背後の機動隊、沖縄防衛局職員に向かってシュプレヒコールを浴びせる。国道を通り過ぎる車の窓から手を振る姿も見られる。

山城さんを先頭に、新ゲートから基地のフェンス沿いに第二ゲートを通して辺野古弾薬庫方面まで1キロほどのデモ行進。基地内を流れる美謝川を過ぎて、キャンプシュワブと弾薬庫の間に入り込み、弾薬庫ゲート側でシュプレヒコール。シュワブと弾薬庫は駐屯部隊が異なり、

完全に分離されている。

大浦湾方面の作業船の様子もよく見えた。巨大なクレーンを装備した船と重そうな資材を積載した台船が並んでいる。きょうは20トンのコンクリートブロックを4個、珊瑚礁の海に沈めたという。これに抗議する辺野古ぶるー(カヌー隊)と、暴力的に弾圧する海保の攻防は激しかった模様。27日から始まったコンクリートブロック(アンカー)投下作業だが、それほど進捗してはいない。海保は武装した巡視船13隻、特殊ゴムボート30数隻など最大規模の動員体制で防衛省の強硬姿勢を全面的に支えているが、作業の遅れは隠しようもない。



昼の行動は16時過ぎに終わり、座り込みテントには夜の監視体制を支える人たちが入れ替わりやってくる。日が沈むと気温が急激に下がり、ゲート周辺はかなり冷え込んでくる。夜は5度前後か。差し入れの夕飯を済ませ、薪ストーブを囲んで談笑タイム。その輪の中に、県会議員、名護市議会議員、国会議員がいるというのも沖縄ならではの光景だ。参議院議員の糸数慶子さんは「寝袋議員」と自称している。選挙の時だけ地域(地元)に顔を出すのが議員の仕事ではない。闘いの現場に身を置くことで人々の怒りや叫びの奥底にあるものを掴みだし、課題を人々と共有化し、人々を代表して政治の場(議会)に提起する。少なくとも沖縄では、代表制民主主義が生きている。

夜中に美味しい雑炊を食べ監視体制に入る。

1月30日(金)

東京との温度差は10度以上あるとはいえ、風が冷たく感じる。テントの泊まり込みには防寒着が必要だ。毛布と寝袋は用意されているが、持参した方がよい。寝ているとすさまじい風がピューピュー、布ずれの音、通過車両、酔っ払いマリーンの甲高い叫び声、ゲートから遊びに出るマリーンの車から流れる大音響のロックが眠りを妨げる。

早朝4時半ころ、仮眠から目覚める。5時過ぎにキャンプハンセン方面から「パラパラパラ」と機関銃の射撃音。頻りに国道を行き来する米軍の大型車両。これが軍事植民地沖縄の現実と改めて実感する。「人間の住む島」という意識は、軍隊の論理からは出てこないのだろう。

きょうもゲートからの資材搬入の動きはなかったが、早朝と夕方の旧ゲート前集會に機動隊が介入。旧ゲートは機動隊の車両4台がぎっしりと並んで完全に封鎖状態になった。これでは簡単には資材搬入車両も入れない。

海上では巨大なコンクリートブロック投入作業が続き、抗議する辺野古ぶるー(カヌー隊)を海保が暴力的に規制。乗り込んできて船ごと拘束する、パドルを奪い取ってカヌーを危険な状態に陥らせる、リーフの外に放置する、といった悪質なやり方が報告されている。早朝、大浦湾側の瀬嵩の浜にゲート前から繰り出して辺野古ぶるーを激励する行動も展開され始めた。

1月31日(土)

旧ゲート前の早朝集會にいきなり機動隊が介入、排除してきて混乱。ゲート前に寄せていた車両が、初めて、駐車違反の切符も切られてしまう。日に日に規制を強めているのは確実だ。警察の執拗な規制が負傷者続出の原因となっている。その後、新ゲートから入ろうとしている海保職員を乗せた車両発見、海上で海保の暴力で指を負傷させられたKさんがちょうど居合わせたので猛烈に抗議。船上で海保に馬乗りされた映画監督のKさんの姿も。抗議集會が始まる。

11時過ぎに沖縄市、那覇市、うるま市から「島ぐるみ集會」のバスが到着して100人を超えたところで午前中の集會。うるま九条の会の仲宗根勇さんの『私は70歳すぎたけれど、60年安保の樺美智子になってもいい!』という激越なアジェンダは大受けだった。発言に聴き入る人々の真剣な表情に、沖縄の人々の怒りの大

きさを感じる。

この日は海上でも大きな動きはなかった。辺野古ぶるーはフロートを超えて大型台船まで近づいたが海保のゴムボートは出てこなかった模様。台船から沈められた20トンのコンクリートブロックを確認、台船には45トンのブロックも見えたとか。大浦湾は確実に破壊されつつある。

夕飯は座り込みテントでバーベキュー。10時過ぎには若者中心のカレーパーティも始まった。沖縄各地からやってくる高校生や大学生が増えているという。

2月1日(日)

明け方の監視活動を終えてゲート前に戻ったところ、海上の作業船が動いているとの情報が入った。昨日の土曜日に海上作業がなく、海保の出動もなかったため、カヌー隊はきょうの日曜日をお休み。その隙をついて、作業台船からトンブロックを沈める作業が強行された。緊急行動で車数台に分乗して大浦湾の瀬嵩の浜まで20数名で抗議に駆けつける。



大きな作業台船が瀬嵩の浜の目の前にいた。海保のゴムボートに守られて、巨大なクレーンでコンクリートブロックを釣り上げようとしていた。抗議船が1隻だけ、頑強な海保のゴムボートに妨害されながら、抗議を続けている。

巨大なコンクリートの塊が海底にズシリと沈む姿を想像する。「奇跡の珊瑚礁」は、ジュゴンの餌場はどうなるのか。浜から怒りのシュプレヒコールを海保と作業船に浴びせる。背後の沖合には、武装した巡視船が数隻浮んで睨みを利かせている。

その後、このブロックが珊瑚を押し潰している映像がヘリ基地反対協により暴露、仲井真前県政の岩礁破碎許可の取消が検討されている。



# 1/29名護市議会意見書

大浦湾・辺野古周辺海域とキャンプ・シュワブゲート前における海上保安庁と沖縄県警による過剰警備に抗議し政府・沖縄防衛局の埋立作業の即時中止を求める意見書

翁長雄志沖縄県知事は、1月26日沖縄防衛局と第11管区海上保安本部及び沖縄県警に対して、建設作業の中断と建設に反対して抗議行動をする県民の安全確保を求めたことが報道されました。

1月23日沖縄県選出野党国会議員5人は、「臨時制限区域に接近しただけで暴力的に首を絞められたり、カメラを奪い取られようとしたりする事態が実際に起こっている。丸腰の抗議に対して過剰なことをするべきではない」として第11管区海上保安本部に対して、大浦湾や辺野古周辺海域での過剰警備について抗議したことも報道されました。さらに、1月24日県選出野党国会議員・県議会議員・市町村議員100人が結集し、キャンプ・シュワブゲート前で抗議行動を行ったことが報道されました。

名護市では、普天間飛行場の辺野古への移設に反対する稲嶺市長が再選され、県知事選挙では翁長雄志氏が移設容認をした仲井真弘多候補に10万票差をつけて当選。衆議院選挙では県内4つの小選挙区すべてで辺野古への移設反対をかかげた候補者が当選しました。県民の民意は、普天間飛行場の辺野古移設に反対であることが内外に示されました。しかし、安倍総理大臣はその結果を無視し、埋立作業を強行しています。

こうした中、埋立反対の市民・県民が抗議行動を行うのは、民主主義国家として当然の行動です。非暴力で、整然と抗議する市民・県民に海上保安庁と機動隊の過剰警備により、多くの負傷者が出ていることは断じて許せません。

よって名護市議会は、海上保安庁と機動隊の過剰警備に強く抗議し、市民の生命・財産を守る立場から、安倍総理大臣は、沖縄県民の民意を尊重して、政府・沖縄防衛局は辺野古埋立作業を強行せず、即時中止することを強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成27年1月29日  
沖縄県名護市議会

宛先：内閣総理大臣、防衛大臣、総務大臣、沖縄防衛局長、第11管区海上保安本部長、



①斜めに傾き、海底にめり込むアンカー用の20tコンクリートブロック  
②めり込んだコンクリートブロックが海底生物を割っていることが確認できる＝7日、名護市辺野古沖（ヘリ基地反対協タイピングチーム提供）

## 20tブロックサンゴ礁破壊 辺野古

【名護】ヘリ基地反対協は9日、新基地建設が進む名護市辺野古で記者会見し、沖縄防衛局が海域で投下しているコンクリート製アンカーで海底の地形がかわっていると明らかにした。（29・31面に関連）  
タイピングチームが撮影した写真には、20tブロックが海底のサンゴ礁を割った。

「名護」ヘリ基地反対協は9日、新基地建設が進む名護市辺野古で記者会見し、沖縄防衛局が海域で投下しているコンクリート製アンカーで海底の地形がかわっていると明らかにした。（29・31面に関連）  
タイピングチームが撮影した写真には、20tブロックが海底のサンゴ礁を割った。

てめり込む様子が写っている。許可区域外の岩礁破壊に当たる。県は防衛局に投下中止と原状回復を命じるべきだと指摘した。  
アンカーは、防衛局が市民の抗議を防ぐフロート（浮島）やオイルフェンスを固定するために設置。県が岩礁破壊を許可した新基地の埋め立て区域より外側に当たる。反対協の北上田毅さん（69）は「知事は毅然と対応してほしい」と求めた。

2/10 沖縄タイムス一面から。その後、2/12 報道ステーションでも取り上げられた。

## 抗議活動面前 拳銃抜き歩く

シュワブ兵 市民ら「威嚇だ」

## 反対運動「金もらってる」

北部訓練場司令官 高江住民に暴言

## 米軍幹部が研究所批判

安保政策への異議紹介記事に投稿

「騒音・不協和音」と表現

ひき逃げ少佐擁護 在沖基地は23%

宜野湾市調査批判 地元2紙「偏向」

## 海兵隊幹部が暴言

海兵隊報道隊長

メールで主張

辺野古抗議けが「茶番」



新基地建設に抗議する市民たちの前に拳銃を持って歩く米兵の巨首（1時半、名護市辺野古、水島博之さん提供）

米軍幹部による暴言が相次いでいる。フェンス越しに抗議する市民の目の前で拳銃を抜いて威嚇する米兵も現れた（左の写真）。高江でも提供手続きが済んでいない N4 地区で訓練している米軍の姿が見られた。沖縄の民意を踏み潰す安倍政権の暴走が米軍の占領者意識、植民地主義を助長しているのは明らかだ。